

2022年度(第67期)事業報告

2022年度(第67期)事業報告

- 財務諸表等
- (1)貸借対照表
 - (2)貸借対照表内訳表
 - (3)損益計算書(正味財産増減計算書)
 - (4)正味財産増減計算書内訳表
 - (5)財務諸表に対する注記
 - (6)附属明細書
 - (7)財産目録
- 収支計算書
- (1)収支計算書
 - (2)収支計算書に対する注記

2023年度(第68期)事業計画

2023年度(第68期)事業計画

収支予算書

維持会員一覧表

2023年5月

一般社団法人 日本トライボロジー学会

2022年度（第67期）事業報告

自 2022年4月 1日
至 2023年3月31日

1. 会員の異動状況

会員の種類		本期末会員数	前期末会員数	差引増減
名誉会員		16	16	0
正会員		2312	2383	▲71
学生会員		441	409	32
維持会員	S級	3	4	▲1
	A級	9	9	0
	B級	4	4	0
	C級	13	13	0
	D級	15	15	0
	E級	120	119	1
	合計	164	164	0
	公共会員	10	10	0

2. 事業の状況

(1) 行事

行事名	講演件数	参加者数	期日	開催方法
トライボロジー会議 2022 春 東京	156	598	2022. 5. 23-25	オンライン
第66期 2021年度評議委員会	0	47	2022. 5. 23	オンライン
第66期定時社員総会	2	1287	2022. 5. 24	オンライン
第3回トライボロジー入門 オンライン講座	3	88	2022. 6. 23-24	オンライン
摩擦の科学×謎解き体験学習	0	9	2022. 9. 3	対面（金沢）
第15回トライボロジー入門西日本講座	3	41	2023. 3. 2-3	ハイブリッド （名古屋）
第12回トライボロジー秋の学校 ➡ 中止	-	-	-	-
第4回 日韓トライボロジーシンポジウム	10	50	2022. 10	韓国
トライボロジー会議 2022 秋 福井	227	650	2022. 11. 9-11	対面（福井）
第4回トライボロジー応用講座【設計編】	1	29	2022. 10. 20	ハイブリッド （名古屋）
第4回トライボロジー応用講座【実験・計測編】	1	41	2022. 11. 18	ハイブリッド （東京）
第68回トライボロジー先端講座	4	66	2022. 12. 2	ハイブリッド （東京）
第2回学生会員向け企業情報提供 - トライボロジー企業バーチャル先輩訪問 -	20(企業)	40(学生)	2022. 12. 14	オンライン
第459回トライボロジー懇談会	1	23	2023. 1. 26	ハイブリッド （東京）
摩擦の科学×謎解き体験学習	0	25	2023. 3. 18	対面（東大生研）

- ・ トライボロジー会議 2022 春 東京は、新型コロナ感染防止対策のため、オンライン開催とした。一般講演 116 件、シンポジウム 30 件および学会賞受賞講演 10 件の計 156 件であり、最近 5 年と比べ 2 割ほど少なかった。特別フォーラムでは、カーボンニュートラルに係わるテーマを、経済産業省 富永様および㈱テクノバ 丸田様に、機械振興会館からオンラインでご講演していただいた。当学会理事の一部も機械振興会館で拝聴・質問し、部分的なハイブリッド方式で開催した。
- ・ 第 67 期に計画していた教育講座では、オンラインで 1 件、ハイブリッドで 5 件をそれぞれ開催した。ただし、直接対話による若手の気づきを意識した「秋の学校」は、新型コロナ感染防止対策のために対面方式が叶わないことから中止とした。ハイブリッド方式での講座では、講師に現地で講演していただいたものの、現地参加者が非常に少なかった（約 15%、トライボロジー懇談会を除く）。現地の総参加者数に応じて、会場の広さを適切化するなどの改善が必要である。なお、講座のアーカイブオンデマンド配信を受講者向けに期間限定で行った。
- ・ 教育講座のテキストの著作権に関して、すべてのテキストに対し当学会への移譲をお願いしてきたが、当学会ガイドラインでは必須とされていないことが分かったため、比較的内容が固まっている入門講座・応用講座のみに著作権の移譲を限定していくこととした。
- ・ トライボロジー会議 2022 秋 福井は、対面方式で開催した。総参加者数 650 名と多く盛況で、特に対面ならではの発表終了後の質疑応答があちこちで行われた。ただし、新型コロナ感染防止対策のため、懇親会は中止し、代わりに交歓会を行った。
- ・ 先端講座では水素のトライボロジー研究会の協力のもと、水素社会とトライボロジーをテーマとして水素利用における最先端の技術動向、その中でトライボロジーが担う役割について、各分野の講師の方から解説して頂いた。ハイブリッド方式で開催し、休憩時間における講師と会場出席者のコミュニケーションが非常に活発に行われた。
- ・ トライボロジー会議での受付業務のデジタル化を推進した。デジタル参加証（2 次元バーコード）を使用し、登録確認や集計などの作業を効率化した。デジタル化をさらに進め効率化を目指す。
- ・ トライボロジーに携わっている学生が本会維持会員企業の情報に接する機会を増やすために、「学生向けの企業情報提供 - トライボロジー企業バーチャル先輩訪問 -」を、昨年度に続き、本年度もオンライン方式で実施した。40 名の学生および 20 社の企業が参加した。
- ・ ITC Fukuoka 2023 (9th International Tribology Conference, Fukuoka 2023) の開催準備を進め、9 月 25 日から 30 日まで開催予定である。国内から 346 件および海外から 373 件の計 719 件の申し込みがあった。
- ・ 次世代へのトライボロジー教育として、9 月に金沢で（金沢子ども科学財団）、3 月に東京大学生産技術研究所（東大 ONG との共催）で摩擦の科学×謎解きイベントを対面方式で実施した。対面開催ということで、子ども達も保護者の方も熱心に聞き入っておられた。子供たちの口からトライボロジーの言葉が聞けるようになり、盛況であった。

(2) 会 誌

会誌「トライボロジスト」、電子版トライボロジスト誌（J-STAGE に掲載）、英文電子ジャーナル「Tribology Online」を発行した。

「トライボロジスト」は 12 回発行した。ページ数は、本文 913 ページ（67 巻 4 号～68 巻 3 号）であった。特集として「小中高生のための理数教育と普及活動」、「表面テクスチャリング技術における最近の研究紹介と今後の展望」、「水素社会の実現に貢献するトライボロジー技術」、「腐食反応の防止・応用技術」、「船舶の省エネ技術の最新動向」、「水潤滑軸受の技術動向」、「省エネルギー社会の実現に向けた産業界の提案」、「トライボロジーの研究・開発を支える表面粗さ測定・欠陥検出技術の最新動向」、「トライボロジー分野における AI 技術」、「レーザーによる表面改質とそのトライボロジー応用」、「自動車の電動化に対応した潤滑油の技術動向」、「カーボンニュートラルに貢献する機械要素

部品」を刊行した。また、「トライボロジーを語る」、「トライボエピソードー博士号取得ー、トライボエピソードー論文賞受賞ー、トライボエピソードー技術賞受賞ー、トライボエピソードー奨励賞受賞ー、トライボエピソードー学生奨励賞ー」の連載を継続した。

Tribology Online は, Vol. 16 No. 2~No. 4 および Vol. 17 No. 1 まで発行し, 306 ページであった。

(3) 研究会

第 67 期は, 学会指定研究会(1), 産学協同研究会(4), 会員提案研究会(22)および地区研究会(2)の計 29 の研究会が活動を行った。

研 究 会 名	種 別	回 数	開催方法
トライボロジー技術への AI の活用を考える研究会	学会指定	1	オンライン
添加剤技術	産学協同	4	オンライン, 対面
固体潤滑	産学協同	2	オンライン
グリース	産学協同	4	オンライン, ハイブリッド
転がり軸受寿命	産学協同	2	オンライン
エンジン潤滑	会員提案	2	ハイブリッド
転がり疲れ	会員提案	1	オンライン
シール	会員提案	2	オンライン
ファイル記憶のトライボロジー	会員提案	0	ー
摩耗	会員提案	2	オンライン, ハイブリッド
メンテナンス・トライボロジー	会員提案	1	対面
塑性加工のトライボロジー	会員提案	2	オンライン, ハイブリッド
トライボケミストリー	会員提案	2	オンライン, 対面
自動車のトライボロジー	会員提案	3	ハイブリッド, 対面
アルミニウムのトライボロジー	会員提案	2	オンライン, 対面
高分子材料のトライボロジー	会員提案	3	オンライン
“超”を目指す軸受技術	会員提案	2	対面
スペーストライボロジー	会員提案	1	オンライン
分子シミュレーションのトライボロジーへの応用	会員提案	1	ハイブリッド
変速機のトライボロジー	会員提案	1	対面
機能性コーティングの最適設計技術	会員提案	2	対面, ハイブリッド
テクスチャリング表面のトライボロジー	会員提案	1	ハイブリッド
境界潤滑	会員提案	1	対面
工作機械のトライボロジー	会員提案	2	ハイブリッド
トライボダイナミクス	会員提案	2	オンライン, ハイブリッド
表面力	会員提案	2	オンライン, 対面
水素のトライボロジー	会員提案	2	ハイブリッド
日本海トライボロジー	地 区	1	ハイブリッド
北海道トライボロジー	地 区	1	オンライン

- ・ 2021 年度同様、2022 年度（第 67 期）に予定されていた研究会は、新型コロナ感染防止に配慮し、オンライン、対面およびハイブリッドの各方式で実施された。
- ・ 学会指定研究会である「トライボロジー技術への A I の活用を考える研究会」は、第 67 期が活動の最終年度となるため、活動の集大成として、学会誌「トライボロジスト 67 号第 12 号(2022)」に「特集・トライボロジー分野における A I 技術」と題して特集記事を掲載した。データ科学に関する歴史から始まり、機械学習の基礎、トライボロジー分野における適用事例やその将来性といった、広く A I に関わる技術動向を踏まえ、トライボロジー分野への適用とその可能性についてまとめた。
- ・ 終了する「トライボロジー技術への A I の活用を考える研究会」に代わる次期学会指定研究会として、「カーボンニュートラルに寄与するトライボロジー技術」研究会を企画・立案した。「カーボンニュートラル」や「脱炭素化」に貢献する新たなトライボシステムやトライボマテリアルの創出を目的にしたものである。

(4) 主な取り組み

新型コロナ感染防止対策に加え、当学会の事業経費の抑制の観点から、オンラインシステム (Webex および Zoom) を積極的に利用しつつ、理事会、各委員会、各研究会は、期初に今期の活動計画を立案し、以下の活動を取り組んだ。

[会員向けのサービス面]

- ・ トライボロジー会議 2024 秋の開催地を沖縄県名護市に定め、実行委員会を立ち上げた。また、遠隔地の参加者の利便性向上には、トライボロジー会議もハイブリッド方式での開催が望ましいと考え、この実現目標を 2024 春と定め、準備を開始した。
- ・ トライボロジーハンドブック改訂に向け、編集委員会の活動を開始した。コンピュータ上での解析の発展を踏まえ、シミュレーション編を加えることとした。その上で、章立ての見直しを進めた。
- ・ 技術論文のオープン化の進展への対応ならびに Tribology Online の英論文の著作権方針との不整合を是正する目的で、トライボロジストの和論文も、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスのルールに準拠するべきと考え、この準備を開始した。
- ・ トライボロジー関連の特定技術分野の最新動向および今後の展望を、当学会の研究会が、毎年 1 月号のトライボロジストへ掲載することとした（取り纏め：研究委員会）。
- ・ 研究委員会の主催による短時間ウェブセミナーの検討を開始した。研究会以外の当学会会員も参加できるもので、研究会の増強および研究会員以外の参加者への技術情報の提供を目的とする。
- ・ 教育活動に貢献した会員の業績・功績を表彰するための教育貢献賞の設立に向け、規程類を整備した。第 68 期から公募・選考を開始する。
- ・ 当学会ウェブページに役員選挙規程を新たに掲載した（これまでは、年に 1 回、トライボロジストに掲載されるのみであった）。
- ・ 評議委員になる機会の少ない維持会員との意見交換を目的にした「維持会員企業懇談会」を「維持会員企業交流会」に改名し開催した。過去は東京で開催したが、遠方の維持会員からの参加を促すため、今期は名古屋大学で行った。維持会員からの率直な要望をいただきつつ、当学会の種々の事業への理解を深めていただくよい機会であり、当面、継続する。
- ・ デジタル技術のさらなる進展に対応するため、当学会のデジタル形式の著作物の取り扱い方針の見直しを開始した。会員の利便性向上ならびに当学会のプレゼンス向上に向け、デジタル著作物の適切な取り扱い方針を設定する。
- ・ 学会業務支援システムのイベント管理関係について改修を行い、教育講習やトライボロジー会議に対応しやすくし、会員および事務局の負担軽減となった。また、デジタル参加証や請求書・領収

書のダウンロード化など、本会の DX への取組も開始した。

[当学会のプレゼンス向上]

- ・ Tribology Online のインパクトファクター取得に向けた活動を継続し、2023 年度に取得できる見込みになった。ただし、多数の論文掲載誌にインパクトファクターが与えられることになり、インパクトファクターの点数自体を高める活動が重視されることになった。これに向けては、特集号の発行およびレビュー記事の掲載を企画・推進した。
- ・ 国内でのトライボロジストの増加およびトライボロジーの発展を最終目標に、次世代教育活動を引き続き継続した。東大次世代教育オフィスおよび他学会などとコラボレーションし、トライボロジー会議 2022 秋 福井では、日本化学会、応用物理学会、日本分析機器工業会および情報処理学会の次世代教育担当者を招待し次世代教育に関するシンポジウムを開催した。また、小学生の夏休みの自由研究に使える題材として当学会ウェブページ内に掲載している「摩擦の実験ノート」のコンテンツを増やした。

[運営の効率化・健全化]

- ・ 教育講習やトライボロジー会議を実施する際の会員および事務局の手続きの容易化のため、学会業務支援システムのイベント管理機能を改良した〔Ⅱ (1) 収支計算書のソフトウェア取得：7,084,000 円〕。請求書・領収書をシステムからダウンロードする機能およびトライボロジー会議でのデジタル参加証の導入などが含まれる。
- ・ 電子帳簿保存法対応の会計ソフトを早期導入し、事務局員の業務効率の向上を図った。
- ・ 当学会の 2008 年以降の財務体質を運営委員会が分析し、概ね黒字で運営できていることを確認した。この継続には、期末の総資産増減表だけで議論するのではなく、管理会計的な資金の見える化を図り、財務体質の把握の容易化を目指すこととした。財務委員会は、現在 2 つある積立資産（潤滑技術、国際活動）の使用目的・運用ルールを整理して、管理会計的な資金の見える化に向けた規程類の整備を開始した。

I 財務諸表等
(1) 貸借対照表

貸借対照表
2023年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	42,117,646	49,767,753	△ 7,650,107
仮払金	3,883,720	3,836,795	46,925
未収入金	1,556,700	1,344,700	212,000
前払費用	129,000	51,500	77,500
流動資産合計	47,687,066	55,000,748	△ 7,313,682
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	5,000,000	5,000,000	0
基本財産合計	5,000,000	5,000,000	0
(2) 特定資産			
国際会議積立資産	45,869,006	45,869,006	0
潤滑技術積立資産	52,307,842	52,307,842	0
退職給付引当資産	1,323,046	783,013	540,033
特定資産合計	99,499,894	98,959,861	540,033
(3) その他固定資産			
ソフトウェア	14,207,085	10,753,885	3,453,200
敷金	1,046,040	1,046,040	0
その他固定資産合計	15,253,125	11,799,925	3,453,200
固定資産合計	119,753,019	115,759,786	3,993,233
資産合計	167,440,085	170,760,534	△ 3,320,449
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,338,600	2,710,684	△ 372,084
未払費用	1,106,512	1,057,456	49,056
前受金	376,000	129,000	247,000
前受会費	3,905,700	6,801,615	△ 2,895,915
仮受金	9,600	9,600	0
流動負債合計	7,736,412	10,708,355	△ 2,971,943
2. 固定負債			
退職給付引当金	1,323,046	783,013	540,033
固定負債合計	1,323,046	783,013	540,033
負債合計	9,059,458	11,491,368	△ 2,431,910
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	600,000	600,000	0
(うち基本財産への充当額)	600,000	600,000	0
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	157,780,627	158,669,166	△ 888,539
(うち基本財産への充当額)	4,400,000	4,400,000	0
(うち特定資産への充当額)	98,176,848	98,176,848	0
正味財産合計	158,380,627	159,269,166	△ 888,539
負債及び正味財産合計	167,440,085	170,760,534	△ 3,320,449

(2) 貸借対照表内訳表

貸借対照表内訳表
2023年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	会誌および図書 の発行	講座・セミナー 育成	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	0	0	42,117,646	0	42,117,646
仮払金	0	0	3,883,720	0	3,883,720
未収入金	1,232,000	0	324,700	0	1,556,700
前払費用	0	0	129,000	0	129,000
流動資産合計	1,232,000	0	46,455,066	0	47,687,066
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
定期預金	0	0	5,000,000	0	5,000,000
基本財産合計	0	0	5,000,000	0	5,000,000
(2) 特定資産					
国際会議積立資産	0	0	45,869,006	0	45,869,006
潤滑技術積立資産	0	0	52,307,842	0	52,307,842
退職給付引当資産	0	0	1,323,046	0	1,323,046
特定資産合計	0	0	99,499,894	0	99,499,894
(3) その他固定資産					
ソフトウェア	0	0	14,207,085	0	14,207,085
敷金	0	0	1,046,040	0	1,046,040
その他固定資産合計	0	0	15,253,125	0	15,253,125
固定資産合計	0	0	119,753,019	0	119,753,019
資産合計	1,232,000	0	166,208,085	0	167,440,085
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	1,627,515	0	711,085	0	2,338,600
未払費用	0	0	1,106,512	0	1,106,512
前受金	0	0	376,000	0	376,000
前受会費	0	0	3,905,700	0	3,905,700
仮受金	0	0	9,600	0	9,600
流動負債合計	1,627,515	0	6,108,897	0	7,736,412
2. 固定負債					
退職給付引当金	0	0	1,323,046	0	1,323,046
固定負債合計	0	0	1,323,046	0	1,323,046
負債合計	1,627,515	0	7,431,943	0	9,059,458
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
指定正味財産合計	0	0	600,000	0	600,000
(うち基本財産への充当額)	0	0	600,000	0	600,000
2. 一般正味財産	△ 395,515	0	158,176,142	0	157,780,627
(うち基本財産への充当額)	0	0	4,400,000	0	4,400,000
(うち特定資産への充当額)	0	0	98,176,848	0	98,176,848
正味財産合計	△ 395,515	0	158,776,142	0	158,380,627
負債及び正味財産合計	1,232,000	0	166,208,085	0	167,440,085

(3) 正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用収入	164	174	△ 10
入会金収入	55,500	59,000	△ 3,500
会費収入	49,382,700	50,496,100	△ 1,113,400
正会員会費収入	20,534,100	21,070,100	△ 536,000
維持会員会費	28,600,000	29,200,000	△ 600,000
公共会員会費	248,600	226,000	22,600
事業収益	27,582,296	26,803,433	778,863
出版物頒布収入	1,238,983	1,757,955	△ 518,972
広告料収入	4,730,500	4,739,500	△ 9,000
講演会・講習会収入	19,065,650	17,350,900	1,714,750
印税収入	775,153	508,058	267,095
研究会収入	1,772,010	2,447,020	△ 675,010
雑収益	21,299	22,871	△ 1,572
受取利息	1,229	5,776	△ 4,547
雑収入	20,070	17,095	2,975
経常収益計	77,041,959	77,381,578	△ 339,619
(2) 経常費用			
事業費	36,901,708	30,503,486	6,398,222
会誌出版事業費	20,052,487	21,235,942	△ 1,183,455
研究会費用	1,269,887	1,033,738	236,149
講演会講習会費用	10,403,030	5,618,311	4,784,719
英文オンライン出版費	2,786,520	2,513,947	272,573
会議費	2,389,784	101,548	2,288,236
管理費	41,028,790	38,826,834	2,201,956
給与手当	22,318,989	21,550,336	768,653
退職給付費用	540,033	509,063	30,970
外注費	2,135,540	2,551,010	△ 415,470
会議費	1,644,835	661,301	983,534
表彰関連費用	890,362	1,011,604	△ 121,242
新規事業施行費	0	20,087	△ 20,087
維持会員企業懇談会	202,872	0	202,872
旅費交通費	0	370	△ 370
通信運搬費	1,017,617	1,078,926	△ 61,309
消耗品費	456,998	195,586	261,412
印刷製本費	349,233	421,805	△ 72,572
共益費	813,184	802,641	10,543
賃借料	2,674,116	2,674,116	0
租税公課	72,200	721,300	△ 649,100
負担金支出	1,884,936	1,896,120	△ 11,184
リース料	1,353,190	1,339,526	13,664
支払手数料	930,893	801,879	129,014
減価償却費	3,630,800	2,472,353	1,158,447
雑費	112,992	118,811	△ 5,819
経常費用計	77,930,498	69,330,320	8,600,178
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 888,539	8,051,258	△ 8,939,797
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 888,539	8,051,258	△ 8,939,797
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 888,539	8,051,258	△ 8,939,797
一般正味財産期首残高	158,669,166	150,617,908	8,051,258
一般正味財産期末残高	157,780,627	158,669,166	△ 888,539
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	600,000	600,000	0
指定正味財産期末残高	600,000	600,000	0
III 正味財産期末残高	158,380,627	159,269,166	△ 888,539

(4) 正味財産増減計算書内訳表

正味財産増減計算書内訳表
2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	会誌および図書 の発行	講座・セミナー 育成	法人会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用収入	0	0	164	0	164
入会金収入	0	0	55,500	0	55,500
会費収入	0	0	49,382,700	0	49,382,700
正会員会費収入	0	0	20,534,100	0	20,534,100
維持会員会費	0	0	28,600,000	0	28,600,000
公共会員会費	0	0	248,600	0	248,600
事業収益	6,744,636	20,837,660	0	0	27,582,296
出版物頒布収入	1,238,983	0	0	0	1,238,983
広告料収入	4,730,500	0	0	0	4,730,500
講演会・講習会収入	0	19,065,650	0	0	19,065,650
印税収入	775,153	0	0	0	775,153
研究会収入	0	1,772,010	0	0	1,772,010
雑収益	0	0	21,299	0	21,299
受取利息	0	0	1,229	0	1,229
雑収入	0	0	20,070	0	20,070
経常収益計	6,744,636	20,837,660	49,459,663	0	77,041,959
(2) 経常費用					
事業費	24,518,382	12,383,326	0	0	36,901,708
会誌出版事業費	20,052,487	0	0	0	20,052,487
研究会費用	0	1,269,887	0	0	1,269,887
講演会講習会費用	0	10,403,030	0	0	10,403,030
英文オンライン出版費	2,786,520	0	0	0	2,786,520
会議費	1,679,375	710,409	0	0	2,389,784
管理費	0	0	41,028,790	0	41,028,790
給与手当	0	0	22,318,989	0	22,318,989
退職給付費用	0	0	540,033	0	540,033
外注費	0	0	2,135,540	0	2,135,540
会議費	0	0	1,644,835	0	1,644,835
表彰関連費用	0	0	890,362	0	890,362
維持会員企業懇談会	0	0	202,872	0	202,872
通信運搬費	0	0	1,017,617	0	1,017,617
消耗品費	0	0	456,998	0	456,998
印刷製本費	0	0	349,233	0	349,233
共益費	0	0	813,184	0	813,184
賃借料	0	0	2,674,116	0	2,674,116
租税公課	0	0	72,200	0	72,200
負担金支出	0	0	1,884,936	0	1,884,936
リース料	0	0	1,353,190	0	1,353,190
支払手数料	0	0	930,893	0	930,893
減価償却費	0	0	3,630,800	0	3,630,800
雑費	0	0	112,992	0	112,992
経常費用計	24,518,382	12,383,326	41,028,790	0	77,930,498
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 17,773,746	8,454,334	8,430,873	0	△ 888,539
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 17,773,746	8,454,334	8,430,873	0	△ 888,539
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 17,773,746	8,454,334	8,430,873	0	△ 888,539
他会計振替額	△ 17,630,849	8,454,334	9,176,515	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 142,897	0	△ 745,642	0	△ 888,539
一般正味財産期首残高	△ 252,618	0	158,921,784	0	158,669,166
一般正味財産期末残高	△ 395,515	0	158,176,142	0	157,780,627
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	600,000	0	600,000
指定正味財産期末残高	0	0	600,000	0	600,000
III 正味財産期末残高	△ 395,515	0	158,776,142	0	158,380,627

(5) 財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却の方法
ソフトウェア
定額法によっている。
- (2) 引当金の計上基準
退職給付引当金
職員の退職給付に備えるため、当年度末における要支給額に基づき計上している。
- (3) リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理方法によっている。
- (4) 消費税等の会計処理
税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	5,000,000	0	0	5,000,000
小 計	5,000,000	0	0	5,000,000
特定資産				
国際会議積立資産	45,869,006	0	0	45,869,006
潤滑技術積立資産	52,307,842	0	0	52,307,842
退職給付引当資産	783,013	540,033	0	1,323,046
小 計	98,959,861	509,063	0	99,499,894
合 計	103,959,861	509,063	0	104,499,894

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	5,000,000	(600,000)	(4,400,000)	(0)
小 計	5,000,000	(600,000)	(4,400,000)	(0)
特定資産				
国際会議積立資産	45,869,006	(0)	(45,869,006)	(0)
潤滑技術積立資産	52,307,842	(0)	(52,307,842)	(0)
退職給付引当資産	1,323,046	(0)	(0)	(1,323,046)
小 計	99,499,894	(0)	(98,176,848)	(1,323,046)
合 計	104,499,894	(600,000)	(102,576,848)	(1,323,046)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高(直接法により減価償却を行っている場合)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウェア	23,466,998	9,259,913	14,207,085
合 計	23,466,998	9,259,913	14,207,085

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

該当なし

(6) 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、記載を省略している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	783,013	540,033	0	0	1,323,046

(7) 財産目録

財産目録
2023年 3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目 場所・物量・使用目的等		金額
(流動資産)		
	現金	653
	普通預金	31,173,496
	みずほ銀行虎ノ門支店	24,257,418
	三菱UFJ銀行本店	6,916,078
	郵便貯金	4,631,685
	振替貯金	3,311,812
	定期貯金	3,000,000
	ゆうちょ銀行	3,000,000
	仮払金	3,883,720
	切手残高	3,124
	会員提案研究会	3,770,164
	地区研究会	110,432
	未収入金	1,556,700
	会誌出版費(別刷り代)	140,000
	広告料収入	1,092,000
	消費税還付金	324,700
	前払費用	129,000
	トライボロジー会議2023春	77,500
	東京経営管理協会	49,500
	化学情報協会年会費	2,000
流動資産合計		47,687,066
(固定資産)		
基本財産	定期預金	5,000,000
	三井信託銀行本店	5,000,000
特定資産	国際会議積立資産	45,869,006
	三菱UFJ銀行本店	45,869,006
	潤滑技術積立資産	52,307,842
	みずほ銀行虎ノ門支店	52,307,842
	退職給付引当資産	1,323,046
	みずほ銀行神谷町支店	1,323,046
その他固定資産	ソフトウェア	14,207,085
	敷金	1,046,040
固定資産合計		119,753,019
資産合計		167,440,085
(流動負債)		
	未払金	2,338,600
	会誌出版費	1,627,515
	会議室使用料	56,540
	会議費	8,800
	業務管理システム(EM/PM)利用料	399,850
	印刷費用	42,900
	会員管理システム利用料	171,105
	コピー費用	23,265
	電話代	8,625
	未払費用	1,106,512
	未払賞与	1,106,512
	前受金	376,000
	トライボロジー会議2023春	376,000
	前受会費	3,905,700
	入会金	1,500
	正会員会費	2,721,600
	維持会員会費	1,160,000
	公共会員会費	22,600
	仮受金	9,600
	年会費	9,600
流動負債合計		7,736,412
(固定負債)	退職給付引当金	1,323,046
固定負債合計		1,323,046
負債合計		9,059,458
正味財産		158,380,627

Ⅱ 収支計算書
 (1) 収支計算書

収支計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	決算額
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
基本財産運用収入	164
入金収入	55,500
会費収入	49,382,700
正会員会費収入	20,534,100
維持会員費収入	28,600,000
公共会員費収入	248,600
事業収入	27,582,296
出版物頒布収入	1,238,983
広告料収入	4,730,500
講演会講習会収入	19,065,650
印税収入	775,153
研究会収入	1,772,010
雑収入	21,299
受取利息	1,229
雑収入	20,070
事業活動収入計	77,041,959
2. 事業活動支出	
事業費支出	36,901,708
会誌出版事業費	20,052,487
研究会支出	1,269,887
講演会講習会支出	10,403,030
英文オンライン出版費	2,786,520
会議費	2,389,784
管理費支出	36,857,957
給与手当	22,318,989
外注費	2,135,540
会議費	1,644,835
表彰関連支出	890,362
維持会員企業懇談会	202,872
通信運搬費	1,017,617
消耗品費	456,998
印刷製本費	349,233
共益費	813,184
賃借料	2,674,116
租税公課	72,200
負担金支出	1,884,936
リース料	1,353,190
支払手数料	930,893
雑費	112,992
事業活動支出計	73,759,665
事業活動収支差額	3,282,294
II 投資活動収支の部	
1. 投資活動収入	
投資活動収入計	0
2. 投資活動支出	
特定資産取得支出	540,033
退職給付引当資産取得支出	540,033
固定資産取得支出	7,084,000
ソフトウェア取得支出	7,084,000
投資活動支出計	7,624,033
投資活動収支差額	△ 7,624,033
III 財務活動収支の部	
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0
IV 予備費支出	
当期収支差額	△ 4,341,739
前期繰越収支差額	44,292,393
次期繰越収支差額	39,950,654

(2) 収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、下記の科目を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

現金預金
仮払金
未収入金
前払費用
未払金
未払費用
前受金
前受会費
仮受金

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	49,767,753	42,117,646
仮払金	3,836,795	3,883,720
未収入金	1,344,700	1,556,700
前払費用	51,500	129,000
合 計	55,000,748	47,687,066
未払金	2,710,684	2,338,600
未払費用	1,057,456	1,106,512
前受金	129,000	376,000
前受会費	6,801,615	3,905,700
仮受金	9,600	9,600
合 計	10,708,355	7,736,412
次期繰越収支差額	44,292,393	39,950,654

2023年度（第68期）事業計画

1. 行事予定

行事名	期 日	開催方法	摘 要
		開催場所	
第 67 期 2022 年度研究会 主査会議	2023. 5. 11	オンライン	
第 67 期 2022 年度評議委員会	2023. 5. 17	ハイブリッド（東京）	
第 67 期定時社員総会	2023. 5. 30	対面（東京）	
トライボロジー会議 2023 春 東京	2023. 5. 29-31	対面（東京）	
学生会員向け企業情報提供 - トライボロジー企業先輩訪問 対面開催 -	2023. 5. 30	対面（東京）	第 3 回
摩擦の科学×謎解き体験学習 & 理科教室	2023. 6. 10	対面（東大生研）	
トライボロジー 入門講座	2023. 7. 13-14	ハイブリッド（東京）	第 54 回
摩擦の科学×謎解き体験学習	2023. 10 月予定	金沢	
日台トライボロジーシンポジウム	2023. 9 月予定	福岡	第 5 回
9th International Tribology Conference, Fukuoka 2023	2023. 9. 25-30	福岡	第 9 回
日本 - チェコトライボロジーワークショップ	2023. 9 月予定	福岡	第 4 回
トライボロジー秋の学校	2023. 秋予定	未定	第 13 回
トライボロジー応用講座【設計編】【実験・計測編】	2023. 秋予定	未定	第 5 回
トライボロジー先端講座	2023. 秋予定	未定	第 69 回
学生会員向け企業情報提供 - トライボロジー企業バーチャル先輩訪問 -	2023. 12 月予定	オンライン	第 4 回
トライボロジー懇談会	2024. 1 月予定	未定	第 460 回
トライボロジー入門西日本講座	2024. 2 月予定	未定	第 16 回
摩擦の科学×謎解きオンライン体験学習	2024. 3 月予定	東京	
維持会員企業交流会	未定	未定	第 4 回

- ・トライボロジー会議 2023 春 東京は対面で開催する。トライボロジー入門講座はオンライン開催とする。下期に関しては、対面とオンラインの各利点を踏まえつつ、開催方式を決定する。
- ・トライボロジー会議 2023 春 東京においては、企業トライボロジストの魅力を生徒に伝える機会を増やすための行事「学生向けの企業情報提供」を、初めてとなる対面方式で開催する。
- ・国際交流に関しては、ITC Fukuoka 2023 において、JAST-STLE 合同セッション、JAST-GfT 合同セッション、第 4 回日本 - チェコトライボロジーワークショップを開催する。また第 5 回日本 - 台湾トライボロジーシンポジウムを 9 月に開催する。

2. 会 誌

会誌「トライボロジスト」を毎月発行する。特集は、「金型の高機能化を達成する新しいドライコーティング技術」、「ダイヤモンドの最新動向」、「自動車用パワートレインの先端技術動向」、「リファレンス オブ リファレンス -2023 年版- (1)」、「リファレンス オブ リファレンス -2023 年版- (2)」、「転がり軸受の疲労寿命に関する技術動向」、「電気接触とトライボロジー」、「トライボロジー分野におけるその場観察・可視化技術の進展と応用」、「無人機・ドローンに関わるトライボ

ロジー」,「研究会がリードするトライボロジー分野の最新動向」,「表面張力・表面力とトライボロジー」,「高分子添加剤・薄膜のトライボロジー」を計画している。

Tribology Online は, 例年どおり, 年間 4 号を発行する。

3. 研究会

新規の学会指定研究会として, カーボンニュートラルや脱炭素化への貢献を目的に, 「カーボンニュートラルに寄与するトライボロジー技術」研究会を立上げ, 推進する。

また, 各研究会の活動内容の見える化ならびに研究戦略や将来展望などの情報の共有化を目的に, 会誌トライボロジストでの定期特集記事化を実施する。

学会指定研究会: 「カーボンニュートラルに寄与するトライボロジー技術」研究会

産学協同研究会: 添加剤技術, 固体潤滑, グリース, 転がり軸受寿命

会員提案研究会: エンジン潤滑, 転がり疲れ, シール, ファイル記憶のトライボロジー, 摩耗, メンテナンス・トライボロジー, 塑性加工のトライボロジー, トライボケミストリー, 自動車のトライボロジー, アルミニウムのトライボロジー, 高分子材料のトライボロジー, “超” を目指す軸受技術, スペーストライボロジー, 分子シミュレーションのトライボロジーへの応用, 変速機のトライボロジー, 機能性コーティングの最適設計技術, テクスチャリング表面のトライボロジー, 境界潤滑, 工作機械のトライボロジー, トライボダイナミクス, 表面力, 水素のトライボロジー

地区研究会: 日本海トライボロジー, 北海道トライボロジー

4. 主な取り組み

新型コロナへの対応で加速したデジタルツールの進展を踏まえ上で, 会員サービスのさらなる向上および当学会のプレゼンス向上・効率化・健全化に向け, 以下の活動に取り組む。

[会員向けのサービス面]

- ・会員サービスの向上ならびに当学会のプレゼンス向上を目的に, 論文, 解説記事, 学術会議予稿集, トライボロジーハンドブックおよび教育講習講座テキストなどにおけるデジタル著作物の取り扱いの方針を見直す。本活動に向けて臨時委員会を立ち上げる。なお, 臨時委員会の活動には, JAST 70 周年 (2026 年) に向けた記念行事の検討も含める。
- ・トライボロジーハンドブック改訂版の第 70 期での発刊を目指し, 編集活動を継続する。また, トライボロジー辞典および表面処理のトライボロジーの編集委員会を立ち上げる。
- ・トライボロジー分野の最新の研究動向を定期的に発信するため, 研究会がそれぞれの専門分野の動向を執筆し, 毎年 1 月のトライボロジストへ解説記事 (特集: 研究会がリードするトライボロジー分野の最新動向) として掲載する。
- ・当学会の国際的プレゼンス向上ならびに ITC Fukuoka 2023 との整合性向上を図るため, 当学会の英語版ホームページを更新する。
- ・トライボロジー会議 2024 春 東京でのハイブリッド開催を目指し, 準備を進める。
- ・講習会等はハイブリッド開催を継続するとともに, 経費削減に向けた運用改善を図る。
- ・当学会の運営に貢献した会員を表彰する学会活動貢献賞を, 第 69 期から運用できるよう, 規程類, 評価プロセス (ガイドライン, 推薦書など) の整備, 表彰対象の明確化および候補者の調査を行う。
- ・若手トライボロジストの交流の場をトライボロジー会議毎に提供し, 若手会員の増強ならびに当学会活動の活性化を目指す。

- ・会員種別へのシニア会員の新設について、引き続き検討を行う。

[当学会のプレゼンス向上]

- ・海外の主要な学会 (STLE, GfT) との連携強化および主要な国際会議 (WTC, Asiatrib, STLE annual meeting, Leeds-Lyon) での当学会のプレゼンス向上を図るため、引き続き、関係者と検討を進める。主な活動予定は以下の通り。
 - ▶ STLE (米国トライボロジー学会) とは、ITC Fukuoka 2023 において、Early Career Tribologists Symposium を合同開催する。
 - ▶ GfT (ドイツトライボロジー学会) とは、ITC Fukuoka 2023 と GfT 年次大会の会場をネットワークで接続し合同セッションを開催する。
 - ▶ ITC Fukuoka 2023 の機会を利用し、International Tribology Council および Asia Tribology Council との交流を推進する。
- ・Tribology Online のインパクトファクターを向上させるため、国際会議、研究会および二国間交流を通じて特集号を企画し、掲載論文の質の向上を図る。また、校閲業務の国際化・迅速化および効率化も図る。
- ・次世代教育活動をさらに加速させ、当学会に定着させる。6月の東大生研公開時に摩擦の科学×謎解き体験プログラムとトライボロジー理科教室、10月には金沢子ども科学財団と共催でトライボロジー体験教育、3月には体験プログラムを、それぞれ開催し、次世代の若者に向けたトライボロジー啓発活動を行う。加えて実験教材を充実させ教育現場への提供とともに自由研究コンテストも検討する。こども会員の開設検討および他学会との連携を進める。
- ・子供向けの「トライボロジー」の読み物の出版準備を進める。

[運営の効率化・健全化]

- ・一部の委員会活動では、対面実施による委員同士の人的ネットワークづくりを重視して、対面方式での開催を増していく。経費負担は増すものの、人材育成面に加え、当学会の将来の活性化につなげる。
- ・Tribology Online への論文投稿は、インパクトファクター取得が見込める状況になったことから、有料化を検討する。
- ・当学会ウェブページなどの IT システムへの投資効果を高めるために、システム改修の長期計画を立案する。
- ・システム投資および国際活動など、特定事業に向けた経費は、積立資産から支出するように、当学会の規程類の改定を進める。これにより、各事業の収益状態の見える化を促進する。
- ・当学会運営の改善や変更に伴う規程類の見直しを随時行うとともに、最新の規程類が円滑に浸透する良好なガバナンス状態を目指す。

収支予算書

収支予算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用収入	160	200	△ 40
入会金収入	50,000	64,200	△ 14,200
会費収入	49,066,000	49,914,000	△ 848,000
正会員会費収入	20,160,000	20,608,000	△ 448,000
維持会員会費	28,680,000	29,080,000	△ 400,000
公共会員会費	226,000	226,000	0
事業収益	103,060,500	35,139,900	67,920,600
出版物頒布収入	530,000	1,060,000	△ 530,000
広告料収入	4,700,000	4,500,000	200,000
講演会・講習会収入	93,753,500	25,788,900	67,964,600
印税収入	736,000	500,000	236,000
研究会収入	3,341,000	3,291,000	50,000
雑収益	17,800	15,542	2,258
受取利息	800	17	783
雑収入	17,000	15,525	1,475
経常収益計	152,194,460	85,133,842	67,060,618
(2) 経常費用			
事業費	102,311,247	46,805,221	55,506,026
会誌出版事業費	17,150,000	18,360,000	△ 1,210,000
研究会費用	4,500,000	4,696,000	△ 196,000
講演会講習会費用	70,997,687	15,863,011	55,134,676
図書出版費	371,700	229,700	142,000
英文オンライン出版費	4,500,000	4,224,000	276,000
会議費	4,791,860	3,432,510	1,359,350
管理費	48,386,780	52,852,109	△ 4,465,329
給与手当	22,296,500	21,683,692	612,808
退職給付費用	554,000	524,883	29,117
外注費	1,750,000	2,432,034	△ 682,034
会議費	3,417,280	3,243,800	173,480
表彰関連費用	1,200,000	1,150,000	50,000
システム構築費	130,000	7,410,700	△ 7,280,700
維持会員企業交流会	210,000	210,000	0
若手シボジウム	176,000	352,000	△ 176,000
トラベルロジ-パ-ンフレット	50,000	50,000	0
機械系学協会会長懇談会幹事	180,000	0	180,000
旅費交通費	70,000	70,000	0
通信運搬費	1,100,000	1,200,000	△ 100,000
消耗品費	600,000	421,160	178,840
印刷製本費	300,000	400,000	△ 100,000
共益費	813,000	810,000	3,000
賃借料	2,680,000	2,675,000	5,000
租税公課	2,550,000	1,600,000	950,000
負担金支出	2,100,000	2,050,000	50,000
リース料	1,360,000	1,340,000	20,000
支払手数料	1,000,000	850,000	150,000
減価償却費	4,700,000	3,400,000	1,300,000
雑費	150,000	150,000	0
予備費	1,000,000	828,840	171,160
経常費用計	150,698,027	99,657,330	51,040,697
評価損益等調整前当期経常増減額	1,496,433	△ 14,523,488	16,019,921
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,496,433	△ 14,523,488	16,019,921

維持会員一覧表

(五十音順 2023年3月31日現在)

会員名	級	会員名	級
アート金属工業 (株)	E	クローダジャパン (株)	E
Rtec-Instruments(株)	E	K Y B (株)	E
(株) I H I	A	K H ネオケム (株)	E
(株) アイシン	E	(株) 小桜商会	E
愛知製鋼 (株)	E	コスモ石油ルブリカンツ (株)	A
アクロス (株)	E	(株) 小松製作所	D
旭精機工業 (株)	E	三協オイルレス工業 (株)	E
アズビルT A C O (株)	E	三洋化成工業 (株)	C
(株) A D E K A	E	山陽特殊製鋼 (株)	E
(株) アドヴィックス	E	三洋貿易 (株)	E
アフトンケミカル・ジャパン (株)	E	G S カルテックス	E
(株) 天辻鋼球製作所	E	シーエルシー (株)	E
(株) 荒井製作所	E	J F E スチール (株)	D
イーグル工業 (株)	D	(株) ジェイテクト	S
いすゞ自動車 (株)	C	シェフラージャパン (株)	E
出光興産 (株)	A	シェブロンジャパン (株)	B
井上軸受工業 (株)	E	シェルルブリカンツジャパン (株)	A
インフィニウム ジャパン (株)	C	島貿易 (株)	E
S C S K (株)	E	下西技研工業 (株)	E
エステーティー (株)	E	ジヤトコ (株)	E
N S K ワーナー (株)	E	(一社) 潤滑油協会	E
N O K (株)	A	昭和電工 (株)	E
N O K クリューパー (株)	E	神鋼造機 (株)	D
N T N (株)	S	日鉄ケミカル&マテリアル (株)	C
ENEOS (株)	A	スギムラ化学工業 (株)	E
ENEOS和歌山石油精製 (株)	E	スズキ (株)	E
(株) 荏原製作所	E	スターライト工業 (株)	E
(株) エフ・シー・シー	D	(株)スタンダード石油大阪発売所	E
エボニック ジャパン (株)	C	住鋳潤滑剤 (株)	D
(株) エリオニクス	D	住友重機械工業 (株)	D
オイルレス工業 (株)	C	ゼットエフジャパン (株)	E
オートマックス (株)	E	(株) ソミック石川	E
オスカ化学 (株)	E	第一稀元素化学工業 (株)	E
花王 (株) 和歌山研究所	E	大生工業 (株)	E
(株) エクセディ	E	(株) ダイセル	E
(株) LSI	E	(株) ダイゾー ニチモリ事業部	E
(株) キッツ	E	大同化学 (株) 技術研究所	E
川崎重工業 (株)	D	大同工業 (株)	D
(株) 川邑研究所	D	大東潤滑 (株)	E
キーパー (株)	E	大同特殊鋼 (株)	E
協同油脂 (株)	B	大同メタル工業 (株)	C

維持会員一覧表

(五十音順 2023年3月31日現在)

会員名	級	会員名	級
(株) ダイナックス	E	日本ピストンリング (株)	E
ダイハツディーゼル (株)	E	日本ピラー工業 (株)	E
ダイベア (株)	E	日本カニゼン (株)	E
大豊工業 (株)	C	日本高周波鋼業 (株)	E
ダウ・ケミカル日本 (株)	E	日本サン石油 (株)	E
高千穂精機 (株)	E	日本パーカラライジング (株)	E
(株) タンガロイ	E	日本ルーブリゾール (株)	B
(株) タンケンシールセーコウ	E	パーク・システムズ・ジャパン(株)	E
中央油化 (株)	E	パナソニック スマートファクトリーソリューションズ (株)	E
築野食品工業 (株)	E	パレス化学 (株)	E
(株) 椿本チエイン	E	B A S F ジャパン (株)	E
D I C (株)	E	(株) 樋口商会	E
T H K (株)	E	日立建機 (株)	E
T P R (株)	E	(株) 日立製作所	C
(株)テクノポート	E	日野自動車 (株)	E
(公財) 鉄道総合技術研究所	E	(株) フジキン	E
デュボン (株)	E	(株) 不二越	E
デュボン・東レ・スペシャルティ・マテリアル(株)	D	富士ダイス (株)	E
(株) デンソー	D	富士フィルム (株)	E
(株) 東芝	C	(株) プリチストン	C
東邦化学工業 (株)	E	本田技研工業 (株)	A
(株) 東洋金属工業所	E	マコー (株)	E
東洋ドライルーブ (株)	E	マツダ (株)	E
トーヨーエイテック (株)	E	丸和物産 (株)	E
トヨタ自動車 (株)	A	三井化学 (株)	E
(株) 豊田中央研究所	E	三菱鉛筆 (株)	E
トヨタ紡織 (株)	D	三菱重工業 (株)	B
豊通ケミプラス (株)	E	三菱電機 (株) 先端技術総合研究所	E
トライス (株)	E	三矢精工 (株)	E
(株) 西島製作所	E	ミネベアミツミ (株)	D
日油 (株)	E	武蔵精密工業 (株)	E
日産自動車 (株)	A	(株)村田製作所	E
日清紡プレーキ (株)	E	(株) MORESCO	C
(株) ニッペコ	E	ヤマハ発動機 (株)	E
日本アイ・ティ・エフ (株)	E	ヤンマーホールディングス(株)	E
日本クエーカーケミカル (株)	E	(株) U A C J	E
日本グリース (株)	C	ユシロ化学工業 (株)	E
日本ケミカルズ販売 (株)	E	ユニオン石油工業 (株)	E
日本精工 (株)	S	(株) リケン	E
日本製鉄(株)	E	(株) リコー	E
日本トムソン (株)	E	リョービ (株)	E



発行日 2023 年 5 月

発行 一般社団法人日本トライボロジー学会

<https://www.tribology.jp>

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8

機械振興会館 407-2

TEL: 03-3434-1926 FAX: 03-3434-3556

E-mail: jast@tribology.jp